リウマチ科・膠原病内科

【研修目標】

1　一般目標（ＧＩＯ：General Instructional Objective）

関節リウマチや膠原病、血管炎症候群などの自己免疫疾患の診断、治療法の習得、及び不明熱の鑑別法の習得を目的とする。他に、日常診療で遭遇する疾患や病態に適切に対応できるように医師としての基本的な物事の考え方を身につけること。

2　行動目標（ＳＢＯs：Specific Behavior Objectives）

（１）患者および家族から必要な情報収集をおこなえるようになる。
（２）身体所見の取り方を習得する。
（３）POS に従ったカルテの記載法を習得する。
（４）臨床検査の意義と結果の解釈。
（５）患者および家族への説明（informed consent）の徹底をはかる。
（６）患者の持つ社会的、心理的問題の解決能力を習得する。
（７）コメディカルのメンバーと協調した医療の実践。

【研修方略】

1　研修期間

１～６か月間の研修を行う

2　ローテート法

必修の内科の一部として研修する場合には、内分泌・代謝内科と同時期に研修を行う。研修期間内は二つの科のそれぞれの入院患者を受け持つこととなる。

必修の内科研修が終わっていて、自由選択として研修する場合は、リウマチ科・膠原病内科単独で研修できる。

初期研修医は同月に 2 人まで受け入れる。例外として当科単独研修希望の 2 年目研修医がいる場合は合わせて 3 人まで受け入れる（1 年生のみ 3 人は不可）。

3　方法

（１）入院患者の担当医として、指導医の指導の下に、病歴の聴取、身体所見の取り方（特に皮膚・粘膜・関節・筋などにつき）を習得する。また全身状態の評価をし、カルテに記載を行う。
（２）指導医の助けを得ながら、一般検査及び免疫学的検査（自己抗体等）を行い、適切に評価をする。
（３）各種画像検査や生検を指示し、他科と綿密にコミュニケーションを取りながら各臓器病変の評価を行う。
（４）指導医と共に患者及び家族に説明を行い、インフォームド・コンセントやコミュニケーションの取り方を習得する。
（５）中心静脈ラインの留置、胸腔・腹腔穿刺、腰椎穿刺、気管内挿管等の処置に参加する。

（６）ステロイド剤や免疫抑制剤、DMARDs、生物学的製剤、NSAIDs の使用法を習得し、副作用につき患者や家族に説明できる。また副作用を予測した予防投与や、早期発見が適切に行えるようにする。
（７）内科カンファレンスで症例の提示、報告を行う。
（８）リウマチ科・膠原病内科の症例検討会に参加する。
（９）学会や研究会、症例検討会への参加、その予行へ参加をする。

４　週間スケジュール
下記の内科行事に参加する。

曜日	時間	内容
水曜日	１６：３０～１８：００	リウマチ科・膠原病内科症例検討会 部長病棟回診
木曜日	１６：４５～１７：３０	内科カンファレンス

【研修計画責任者】

リウマチ科部長　　北　靖彦

【研修指導医】

研修責任者と指導医（臨床経験７年以上）が指導にあたる。
研修責任者：　リウマチ科部長　　北　靖彦
（日本リウマチ学会指導医・専門医、日本内科学会総合内科専門医）
指　導　医：　膠原病内科部長　　藤原　道雄
（日本リウマチ学会指導医・専門医、日本内科学会総合内科専門医）
リウマチ科・膠原病内科医長　矢部　遥子
（日本リウマチ学会専門医、日本内科学会認定内科医）

【評価】

（１）各研修医は研修プログラムに従って研修到達度の自己の研修評価結果を研修手帳に記入する。
（２）研修指導医は研修プログラムにおける到達目標に従って、研修期間終了時に、研修医の研修到達度を４段階で評価する。その結果を研修管理委員会に必要書類を添えて提出する。

行動目標	方法	場所	担当者
1、2、3	実地診療	病室、勤務室	藤原/矢部
4	自習		
5、6	実地診療	病室、勤務室	藤原/矢部
	ディスカッション	カンファレンス室	全員
7	実地診療	勤務室	藤原/矢部